

2010 年 10 月 29 日
成田国際空港株式会社

成田国際空港アクセス交通実態調査について

弊社では、アクセス改善等の資料とするため、開港当初より成田国際空港へのアクセス交通手段に関する実態調査を隔年毎に実施しておりますが、今年 7 月に開業した成田スカイアクセス線の影響を捉えるために 9 月上旬に追加して調査を実施しましたので、調査結果を報告します。

調査概要

- 調査日時
平成 22 年 9 月 10 日（金）0:00～24:00
- 調査内容
空港内のゲート及び駅改札口等 14 箇所において、全入港者を対象とした目的別入港者数及び入港車両台数のカウント調査を実施。併せて、アンケート用紙の配布を行い、アクセス交通に関する詳細について調査を実施。（今回はカウント調査結果のみの速報）

調査結果

1) 全入港者数の推移

- 全入港者数は 96,033 人であり、前回調査より 4,375 人増加（4.8%増加）。
- 全入港者のうち、出発旅客数は 46,248 人であり、前回調査より 3,878 人増加（9.2%増加）。

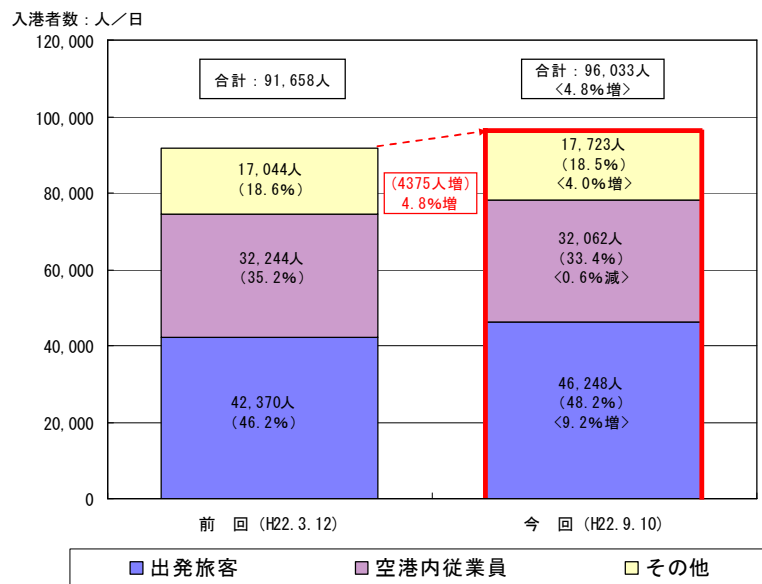


図 1 目的別入港者数の推移

2) 成田スカイアクセス線の利用者数

- 全入港者 96,033 人のうち、成田スカイアクセス線の利用者数は
8,536 人【8.9%】
〔スカイライナー5,661 人
スカイライナー以外 2,875 人〕
- また、出発旅客 46,248 人のうち、成田スカイアクセス線の利用者数は
6,825 人【14.8%】
〔スカイライナー4,722 人
スカイライナー以外 2,103 人〕

3) 出発旅客のアクセス交通手段の構成比の推移

- 成田スカイアクセス線が供用前の前回調査と比較して、出発旅客のアクセス交通手段の構成比は、自動車類が 56.0%から 50.2%になり 5.8 ポイント減少、鉄道類が 38.9%から 44.4%になり 5.5 ポイント増加。
- 自動車類の減少の内訳としては、バス類が 41.5%から 36.7%になり 4.8 ポイント減少。

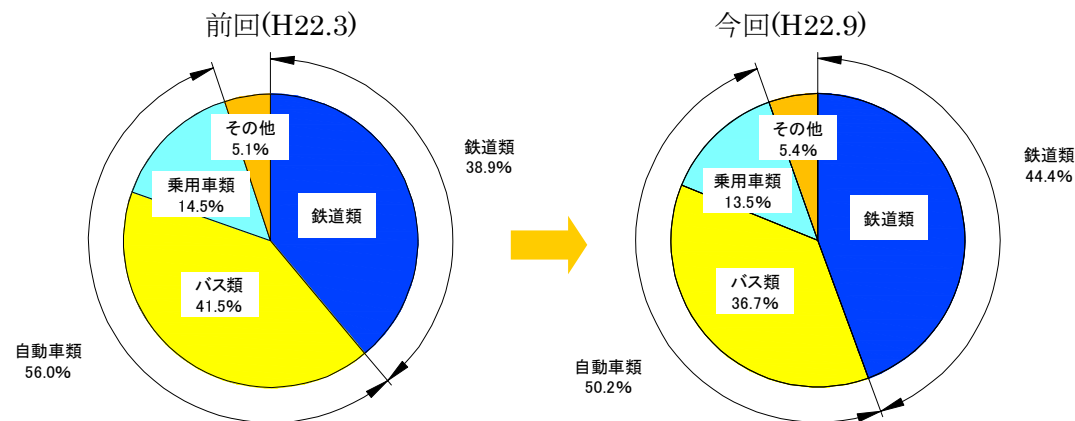


図 2 出発旅客のアクセス交通手段構成比の推移

4) 出発旅客の鉄道類における構成比の推移

- 成田スカイアクセス線が供用前の前々回調査と比較※して、出発旅客の鉄道類における構成比は、JR 線が 44.6%から 40.9%に減少し、京成線が 55.4%から 59.1%に増加。

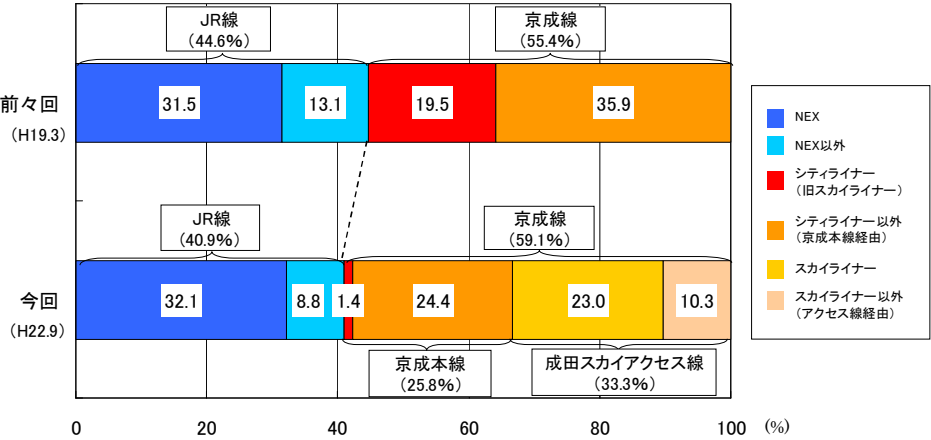


図 3 出発旅客の鉄道類における構成比の推移

※前回調査日においては、JR 線で遅延・運休が発生したため前々回調査結果と比較。

5) 京成線の出発旅客における構成比の推移及びスカイライナーの利用者の増加について

- 京成線の利用者 12,125 人のうち、京成本線の利用者数は 5,300 人、成田スカイアクセス線の利用者は 6,825 人であり、京成線利用者の 56%の方が成田スカイアクセス線を利用。
- 成田スカイアクセス線が供用前の前回調査においては、3,262 人の方が旧スカイライナーを利用していたが、今回調査においては、5,008 人の方がスカイライナー（シティライナーを含む）を利用しており、前回調査と比較し 53.5%増加（1,746 人増加）。

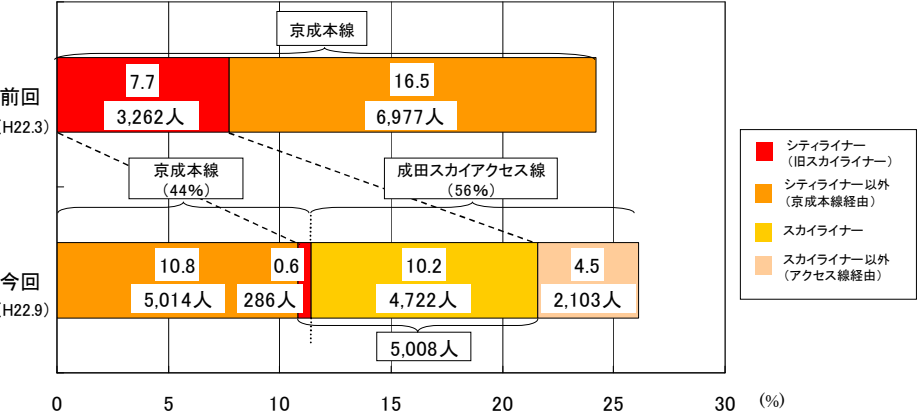


図 4 京成線の出発旅客における構成比の推移